



## 第2回研修委員会リレーコラム

## 子どもとともに読んでみて、『暖かい気持ちになった本』



徳田絵美

『子どもの権利』という言葉が日本で声高に叫ばれるようになって、どれほど経ったのでしょうか？スローガンは時として、華々しくクローズアップされながら、知らないうちに風化してしまうものも多いものです。私は社会的養護に加え、障がい児の療育にも長くかかわってきて『私たちのことを、私たち抜きに勝手に決めないで！』というスローガンを思いにとめて活動して来ました。子どもの権利の保障には自分が関係する事を、自分で決める(少なくとも意思を出す)ことが出来る風土が大切ですね。日常生活の中で、親の立ち位置の私たちが、違和感なくできることもたくさんあります。今回は我が家で子ども共に読んで、気持ちを引き出す糸口になったり、子どもが自分の体に対する権利を知る性教育のはじめの一歩になったりした、2冊の絵本をご紹介します。

## きかせて あなたのきもち

作者は、2月27日から配信される R4 年度 第二回養育者研修の講師でもある 長瀬 正子さんです。

コロナが猛威を振るいだし、子ども達が多くの制限を課されるようになった中で、書かれたものです。私たちのもってくる子ども達は感情の把握や表出が未熟で、不安や恐れを上手に言語化できない上に、感情が混乱していて表情と一致していないことも多いものです。「この子はいつもニヒニヒ笑っているんです」と言われて我が家に来た男児は、心の中に嵐のような不安を抱えていました。我慢して我慢して心が凍り付いている子いるかもしれません。そんな子たちに「困っていることはない？私たちは味方だからなんでも話して」と言ったからと言って、「私は子どもの意思表明権を守っているぞ！」と胸をはれないことは、長年難しい子たちと生活をともにされてきた方々ならお分かりだと思います。

ストレートに問いかけるだけでは不十分なら、私たちには秘密道具が必要です。子どもの心を整理する助けになるもの、子どもと大人の言語の溝を埋めてくれるもの…私にとって絵本はそんな意味でもとても役に立つグッズです。この絵本は、子どもと大人と一緒に読み進めていく中で、たくさんの問いかけをしてくれます。私たちはその答えを子どもと一緒に探していくのです。自分の子どもの頃のことを思い出して話すのも良いでしょう。塗り絵(ワークブック)がついているので、ゆったりと塗り絵をしながら思いをめぐらすこともできます。問いかけに対する直接的な答えだけでなく、表情や、答えの裏にあるもやもやした気持ちなども、一緒に色を塗りながら拾い上げていくこともできます。

ページごとにある、『あなたが持っている子どもの権利』という部分は、子どもたちに自分の気持ちが、不当な欲求ではなく権利として保障されているものなのだと教えてくれます。大人と子どもの間に共通の土台が出来ることは、心のケアに欠くことのできないものだと感じます。2月27日から3月6日のオンライン研修も是非ご覧ください

## はじめての「からだ」と「性」のえほん だいじ だいじ どーこだ？

作者は産婦人科医でもある えんみ さきこ さんです。『性教育って難しい』と感じておられる方には是非お勧めしたい絵本です。

この絵本は、自分の体は自分の大切なもので、そのなかでも『とくべつだいじなところは パンツ中・お口・おむね』『パンツのなかには みるのもさわるともじぶんだけ』ちゃんと理由があつて触るときは『さわっていい？て聞くからね』『だいじ だいじはじぶんであらう』『いやなことをされそうになったら』『大きな声で、だめ！いやだ！！』っておとなにはなそう』等といった、子どもが自分の体に対して持っている権利を優しく教えています。

子どもの性被害も思春期からの性加害も、どちらも自分と他者との体や心の境界線が曖昧で、権利意識が欠如していることが根底にあるように思います。子どもたちに『あなたの体はあなたのもの、あなたの気持ちもあなたのもの、どちらもとっても大事！』『それと同じに A ちゃんの体や気持ちは A ちゃんのもので、とっても大事なものなの！だれも人の大事をかってに触ったり 気持ちを無視したりしてはいけないんだよ』という当たり前のことを、家庭の中で繰り返し伝えていくことが、自分も他者も大切にできる人になっていく大切なステップだと思います。体のつくりや避妊法なども必要ですが、性教育の土台は個人の尊厳の保障ではないかと思えます。絵本はそんな小難しい概念をいともたやすく教えてくれるのです。大人も子どもも心を忘れないためにも、本棚に絵本を蓄えてみてはいかがでしょうか。